

東北大学前教授 谷内研太郎工学博士

雑誌名	東北大学選鑛製錬研究所彙報 = Bulletin of the Research Institute of Mineral Dressing and Metallurgy, Tohoku University
巻	37
号	1
ページ	iii-iv
発行年	1981-10-20
URL	http://hdl.handle.net/10097/32800



谷内研太郎工学博士

東北大学前教授 谷内研太郎工学博士

谷内研太郎先生は福井市の生れで、旧制東京高等学校を経て東北帝国大学工学部金属工学科を昭和16年3月卒業し、小野健二先生の担当されていた電気冶金学講座の助手になりました。太平洋戦争が勃発し、4年有余軍隊生活を経験されて昭和20年復員、すぐ講師に昇格されました。しかし、軍隊時代の無理のため御病気になる昭和24年10月職を辞し、療養に専心されました。健康をとり戻されて昭和35年芝浦工業大学金属工学科講師として金属工学の分野に復帰され、昭和39年教授になり、創設期にあった私学の振興に大いに努力されました。研究費、測定装置の誠に貧弱なその頃の状況にもかかわらず、低品位ニッケル鉱の処理に関する研究やアルミニウムの電解精製浴であるフッ化物溶融塩の物性測定に関する研究を次々と発表され、学会から注目を浴びました。このことは芝浦工業大学金属工学科の名を高めるのにどんなに役立ったかわかりません。研究内容も極めてユニークであり、低品位ニッケル鉱の処理に関する研究は米国 AMAX 社の研究所で英訳され、研究に役立てられていたことは有名であります。また、溶融塩の物性測定の研究は「アルミニウムの電解精製浴に関する研究」にまとめられて、昭和44年11月東北大学より工学博士の学位を得られました。

昭和45年請われて東北大学選鉱製錬研究所軽金属製錬研究部門の専任教授となられ、電解精製浴の物性の研究、亜鉛製錬の研究、最近重要性を高めているタンタル、バナジウム、チタンなどのプラズマ製錬に関する研究、またアルミニウム新製錬法の最大の問題点である鉱石からの塩化アルミニウムの直接製造法、塩化アルミニウムを含む混合溶融塩の物性に関する研究など広範囲の研究をされ、国内国外より高く評価されております。この間、日本鉱業会評議員、日本金属学会、軽金属学会、電気化学協会各誌の編集委員を勤め、学会の発展に寄与されました。昭和54年には日本鉱業会塩化製錬研究委員会委員長として、特殊金属等の新製錬法開発研究に貢献されました。

また昭和43年労働省の「アルミニウム溶解炉爆発事故調査団員」、昭和50年通産省「産業構造審議会アルミニウム部会専門委員」などとして広い視野からも活躍されました。

昭和56年4月1日をもって停年退官され、5月より客員教授として大韓民国全北大学校工科大学金属工学科で大学院の教育と研究に専念されております。今後先生の益々の御健勝、御活躍を願うと共に、従来に変らぬ有益な御助言を賜わるよう切望する次第であります。